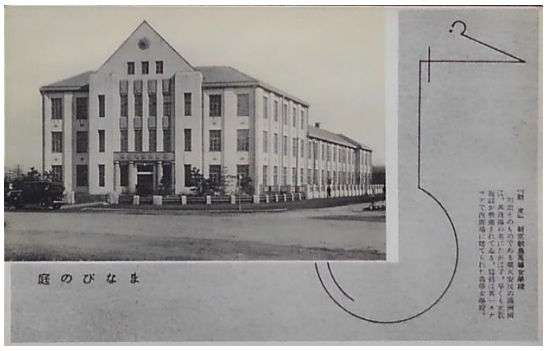
戦前期外地の文化機関を中心とした絵葉書一覧　Ⅳ. 新京（長春）

岡村敬二編

日露戦争後、日本は長春以南の鉄道支配権を獲得して南満州鉄道株式会社を設立させたが、その沿線には附属地が設けられ、各都市の開発が行われていった。長春においてはあらたに長春駅が設けられ、この駅の南側を中心に諸機関が設立されていった。それとは別に、中国人が従来居住してきたいわゆる城内といわれる地域もあり、繁華な街として発展していった。昭和 6 年 9 月の満洲事変ののち翌年 3 月には洲国が建国される。そして長春が国都として定められ、その名を新京と改めた。これにあわせて、長春の名を冠していた各種機関の多くが新京と改称する。新たに官庁街も整備され、各部局の建物が建設されていった。昭和 12 年 12 月には、満洲国の治外法権が撤廃され、満鉄所属の諸機関も満洲国に移管されることとなった。こうした行政制度の変遷に合わせて、ここに掲げた絵葉書も、その名称を転じていくのである。

新京 1「新京高等女学校（満洲国新京名所）」。長春高等女学校から改称、さらに新京敷島高等女学校と改めた。西広場の東に建ち、南東が新京神社に隣接していた。



新京 2「新京敷島高等女学校 明朗そのものである順天安民の満洲国は、その発揚の名にたがわず、早くも文教施設が整備されてゐる。寫眞は其一スナップで西広場に建てられた高等女学校」

新京３「満人街清真寺（新京）」。清真寺はイスラム寺院の総称、日本橋からさらに南東に行ったところに位置していた。

新京４「満人街清真寺（新京）」（２）。新京４に同じ

新京５「孔子塚（満洲国新京名所）」。孔子塚とあるが正しくは孝子塚。大同公園正門前の大同大街にあるもので王夢惺という孝子を祀ったお塚。「有求必應」などの額が積まれ、塚の上には道士がひとりたち、塚の下には供物や写真などを売る店が出ていた（『新京案内』）。

新京６「（大満洲百景）新京宮内府正門及興運橋」。囲みは溥儀と正室の婉容。宮内府は康徳（1934）元年に設置された皇帝に属する執行機関。のちには、興仁大路の北、国務院・治安部・外務局などに囲まれた官庁街に皇宮の建設が図られた。木山捷平『長春五馬路』のラストシーンはこの皇宮が舞台である。

新京 7「（大満洲百景）新京驛　（上右）南嶺戦蹟記念碑　（上左）大同公園」

新京 8「（大満洲百景）新京驛（上）寛城子驛」。寛城子駅は、新京駅へのルート変更により廃止となった。この地域には多くの作家や芸術家らが住み、渡満作家らも寄宿してここを舞台に多くの創作がなされた。

新京 9「寛城子兵営に見る我が砲弾の威力」。北村謙次郎『北邊慕情記』には、寛城子は自他ともに一種の「治外法権」が意識されていたとある。いわば作家ら文化人のアジールであったわけだ。

新京 10「（寛城子戦蹟）我が軍の占領せる事変当時の寛城子兵営と皇軍の状況」

新京 11「（新京）線の交響美を誇る豊楽劇場」。三中井百貨店の西、欧州の城郭を思わせる立派な建物だったがいわば二番館で、封切館は新京キネマ・長春座・帝都座であった（栗原仲道『新京の地図 長春回想記』）。

新京 12「（新京）記念公会堂の麗容」。南広場の北、長春座の隣にあった。

新京 13「長春記念館」。長春記念館というのは満洲国建国前の記念館の呼称。

新京 14「長春八千代館藝妓連余興 乾写真館発行」

新京 15「大同広場（新京）」。駅から大同大街を南に行くと大同広場にでる。写真右端は満洲中央銀行総行、左の大きな建物は満洲電信電話株式会社である。

新京 16「（新京）経済界に君臨する満洲中央銀行總行の新偉容」。大同元（1932 年）7 月開業。

新京 17「長春郵便局」。のち新京中央郵政局。駅から南に延びる中央通りの東側に中央通警察署と並んで建つ。その南に長春（のち新京）図書館、通りを隔てて新京神社があった。

新京 18「（新京）南広場」。駅から南東の日本橋通にある。正面は満洲興業銀行支店。さらに行くと日本橋。

新京 19「兒玉公園「(新京)」新京児玉公園。児玉源太郎大将の名を冠した。昭和 13 年に西公園から改称。

新京 20「(長春名勝) 林泉の美掬すべき西公園の景観)。駅の南方。附近に国防会館・関東局などがある。

新京 21「(新京) 西公園内池畔の清景)」西公園長春。運動場や野球場があり、野球の対抗戦も行われた。

新京 22「(長春) 西公園の池)。長春が新京と改称されたのは大同元 (1932) 年 3 月 10 日である。

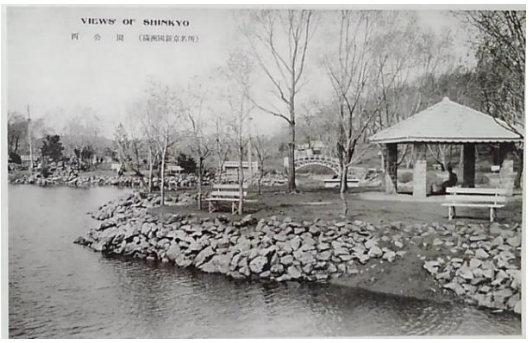
新京 23「長春西公園ノ弐)。兒玉公園として整備されるずいぶん以前の写真のようである。

新京 24「長春西公園事務所」。事務所は中央通入口からすぐの場所にある。

新京 25「長春西公園の誠忠碑」

新京 26「忠霊塔」。兒玉公園の南西、白菊小学校の斜め向かいにある。

新京 27「忠魂は鎮まる 輝く満洲帝国の捨石として戦死を遂げた忠勇将士の霊を慰むる忠霊塔は、新京兒玉公園の一角に建設せられ、此地を訪ぬる者に感銘を與へる。新京」



新京 28「西公園（満洲国新京名所」

新京 29「(新京) 国民の崇敬の念を喚起する 新京神社」。中央通りの西側、新京図書館向かいにあった。

新京 30「(新京) 長春神社」。、大正 4 年 10 月創建、大同元 (1932) 年新京神社と改称。

新京 31「満洲新京神社 御手洗 (社務所発行)」。祭神は、天照大神・明治天皇・大国主命。

新京 32「長春支那街の雑踏」。支那街というのは日本橋據から南の新市街から外れた地域である。

新京 33「支那街（満洲国新京名所）」

新京 34「（新京）最も繁華を極むる日本橋通り」。新京百貨店が見える。

新京 35「（大満洲百景）新京日本橋及吉野町」。左の大きな建物は新京百貨店、小さな囲みは吉野町。

新京 36「（15）（大満洲百景）新京日本橋及吉野町」（２）。35 と同じ写真。

新京 37「新発路寶山百貨店」。八島通との交差点にあり高級品も扱う。通りを隔て映画館帝都座があった。

新京 38「(新京) 新京の銀座街吉野町の整形盛景」。吉野町は駅の南に幾筋かの東西の繁華な通り、巌松堂もあった。

新京 39「長春日本橋通」。橋名板に「日本橋」とある。

新京 40「吉野町（銀座通り）百貨店金泰洋行（新京)」。吉野町は繁華な通りで日本橋通の角に金泰洋行、通りの東には長春座・公会堂があった。

新京 41「(新京) 威容を示す城塞式建築首都警察庁」。大同広場の南西に位置した。

新京 42「(新京) 近代建築美燦たる外交部」。昭和 12 年の満鉄付属地行政権移譲により国務院下の外務局に縮小されたが、昭和 17 年 4 月再び外交部が復活している

新京 43「(新京) 偉容儼然たる関東軍司令部」。司令部は旅順から奉天、満洲国建国後に新京へ移転。児玉公園の南、大同大街を隔て関東局の向かいにあり、関東軍司令官は駐満大使を兼務、大使館も設置された。

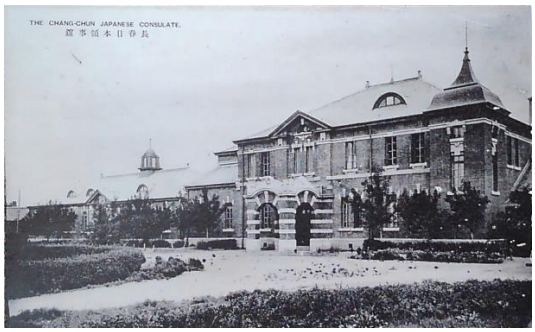
新京 44「(新京) 典雅壮大に輝く蒙政部の全景」。モンゴル統治に対する行政機関。康徳 4 (1937) 年 7 月、国務院興安局に再編された。

新京 45「長春帝国領事館」。建国前の写真。城内五馬路にあった。

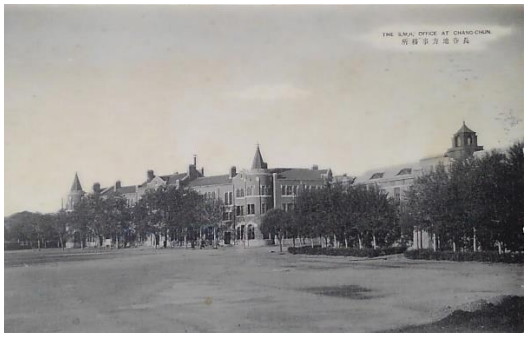
新京 46「満洲国国務院（新京）」。満洲国の中央行政機関。幾度か改編があったが、総務庁と民政部・外交部・軍政部など、また資政局・法制局などの部局が置かれた。南に伸びる順天路の東北角に位置した。

新京 47「竣成せる関東軍司令官々邸（新京）」。兒玉公園と通りを隔てて南にあった。関東軍司令官は満洲国駐箚特命全権大使を兼務する権力の象徴であり、この官邸も大邸宅であった。

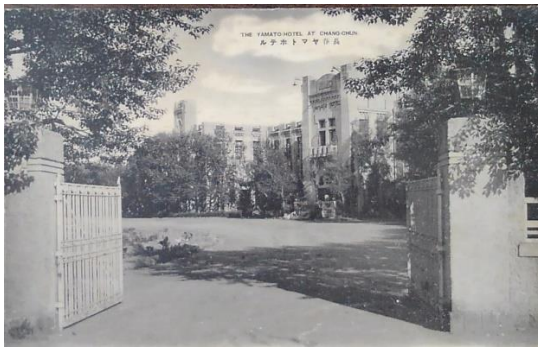
新京 48「（新京）関東軍軍司令官々舎の麗容　（新京）親交の殿堂日満軍人会館」



新京 49「長春日本領事館」。当初は奉天総領事館の分館、のち長春領事館、長春領事館さらに新京総領事館となった。治外法権撤廃後には新京・哈爾浜総領事館、牡丹江・黒河・満洲里領事館となった。



新京 50「長春地方事務所」



新京 51「長春ヤマトホテル」。のち新京ヤマトホテル。大連・星ヶ浦・旅順・奉天・哈爾濱など主要都市に設置された満鉄直営のホテル。戦前期の小説や紀行記によく登場する。

新京 52「（新京）満洲帝国の法規を制定する立法院」

新京 53「（新京）明朗鮮麗なる文教部と国都建設局」

新京 54「（新京）宏壮なる電話交換局及放送局」

新京 55「（新京）新京銀座の名も適はしき遊歩街 吉野町」